慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	シヨオを中心として観たるフエビヤン社会主義運動（一）
Sub Title	
Author	町田, 義一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.7 (1921. 7) ,p.1019(107)- 1030(118)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210701-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

一大勞働軍を編成することを意味する。……産業が全社會の爲めに勞働者自身に依りて管理せられ組織せらるゝにあらざる限り勞働者は自由たることを得ぬ」と云ふは、氏が他の個所に於て說ける思想と稍相容れざるものであろう。何となれば前に揭げたる氏の言より見れば勞働者は産業を組織する丈けであつて、社會の利益てふことは一個の「機能的結社――其が如何なる意味なるにせよ――に過ぎぬと見做さるゝ國家に依つて擁護せらるゝものなるに、今や忽ちにして其勞働者は全社會の爲めに自ら團結す可きものであると告げらるゝを見るからである。乍併斯の如きは强ひて之を論ずるの必要なきが故に暫く之を措くとして、コオルが一六二頁に於て「賃銀制度は資本勞働の再結合、即ち此兩者が總ての人の掌裡に置かるゝと共に終熄せねばならぬ。此を齋らさんが爲めに、賃銀勞働者は資本の管理を握らねばならぬ」と言ふは果して如何なる意味であろうか？。コオル氏は此が果して賃銀勞働者の階級が資本の設定せる工場機械等を强奪することを意味するや否やを明示せぬ。而して又たコオル氏は「此管理は國家的組合の下に於ては國家を通じて集産的に施行せらる」と說くのであるが、國家が如何にして此管理を得るに至るやに就ては全く說明を加へずして闇黑中に吾々を放棄するのである。然れば此點に關しては吾々はコオル氏よりもホブソン氏の方一層の光明を吾々に與ふるものであると言はねばならぬのであるが、今は之を玆に試みないであろう。

（附記、ウイザアスの評論は次にホブソンに及びスタアリングに至つて居るが、其筆法は概ね同一にして特に勝れりとも思はれぬから、左まではとして玆に之を打切つて置く。）

シヨオを中心として觀たるフエビヤン社會主義運動（一）

町田義一郎

一

一八八三年三月十四日に Karl Marx が倫敦で死んでから半歲餘にして彼の社會思想とは直接關係のない純粹な英國流社會主義の一派が發生した。Fabian Society の成立がそれであつた。是が機會となつたのは Thomas Davidson（一八四〇――一八九〇）の渡英であつた。（註一）彼の倫敦の客寓には宗敎道德社會思想等に興味を有する靑年達が集つて來た。彼が倫敦を去つてから此集會は後に History of Fabian Society を著はした（Pease）の宅で隔週催される事になつた。第一回の一八八三年十月二十四日の會で豫て Davidson が彼等に說いて居た『新生』（Vita Nuova）といふ論文の朗讀とその中に示された崇高な生活を營む事の出來る樣な共産主義社會の建設は如何なる方法で可能になるかに就て討論を行つた。拾一月七日の第二回には討論の結果『最高道德の可能性に據つて社會の改造を行ふ事を終局目的とする聯盟を作る事』と云ふ決議を行ひ、次の廿三日には次の案が表面上滿場一致で可決された。『競爭制度は多數の者を犧牲にして小數の者に幸福と快樂を與へるものである事及び社會は一般の安寧及び幸福を確保する樣な方法に據つて改造されねばならぬと云ふ事を本會々員は主張す。』併し此決議は精神的な方面を欠いてゐると云ふ非難が會員中にあつたので更に十二月七日に左の如き案が提出された。

新生聯盟(Fellowship of New Life)

目的――會員各自及び全體の完成な人格を養成する事。

主義――物質を精神に從屬せしむる事。

聯盟――只一つの又欠くべからざる協會の條件は目的及び主義に對して誠心誠意熱心に盡力する事。

併し是は討論が決せず一八八四年一月四日に(一)本會は Fabian Society と稱する事、(二)當分十一月二十三日の決議以上何等の義務を會員に強要せぬ事、(三)十一月七日の決議中『改造』といふ語の下に『促進する』と云ふ句を入れる事(四)その目的を達するに如何なる政策を採る可きかを研究する爲め(イ)討論、論文の朗讀、報告の聽取その他の會合を催す事、(ロ)會の代表者を社會問題に關する集會、勞働者の會合その他に派遣し、その經過を會に報告させ又時に本會の意見を提議する事、(ハ)凡て現在の社會運動及び社會上必要な事柄に關する知識を得る爲め種々な論文を集める等の方法を採る事。大體右の樣な Podmore に依つて提出された修正案が可決され初めて Fabian Society が成立したのである。併し『新生聯盟』はその後拾五ヶ年間も維持され一八八九年以來四季刊行の Seedtime を發行し倫理的社會主義、單純生活、人道主義等に關する論文が揭載された。

偖て茲で注意しなければならぬのは當時は未だ彼の協會の二代表者 Sidney Webb と Bernard Shaw もその會員中に見出されなかつた事と後に見る如き確然たる主義綱領も持つて居たわけではなく單に『若し何にか誇るに足る特色があつたとすれば經驗から大いに學ぶ事の出來る能力を有して居たことである』(Shaw—the Fabian Society p. 3.) と云ふ樣な狀態であつて社會主義といふ言葉さへ初めて用ひられたのは演說では四月二十一日の The Two Socialism と云ふ演題であり、協會發行の刊行物では Tracts 第三號 Shaw 起稿の To Provident Landlords And Capitalists 中で『Fabian Society は英國に於ける社會主義の促進を目的とす』といふ句に於て〝あつて、當時の協會はそれ自身が世界的運動の一部である事を認めず、社會主義といふ言葉は唯その思想を表はすのに適當だつたので用ひたに過ぎなかつた。(Pease—History of Fabian Society PP. 37-38) 併し既に空想的な當初の『最高道德』云々といふ樣な考から遠ざかつてゐた事も明らかであつて天才的なペンキ職工 W. L. Phillip に依つて起草されたと云はれる Tract 第一號 Why are many poor? の內容の如きは全く社會主義思想を表はしてゐた。尙協會の出版物中基督を嘲笑したのは此冊子だけだそうである。『君の學校と敎會が永久に敎育を授け、說敎し又祈禱をあげたからつて、そんな事は競爭といふ此盲目的な偶像、即個人の掌中にある資本を惡用するといふ事を排してしまうまでは君には何んの助にもなりはせぬ』(P. 3.) 更に此表紙には Podmore の作と稱される有名な Fabian の二箴言が書れてあつた。

『此男の長評定――爲めに多くの人々に期を逸したと思はれた――の結果が凡ての人即彼の市民にとつて安全であり、國家の爲めに幸福であつたといふ事は爭はれぬ事だらう』

『Hannibal との戰爭に、多くの人々がその遲滯を非難したにも拘はらず Fabius が最も忍耐强くやつた樣に君は好期の來るまで待たなけりやならぬ。併し、時機が到來したら Fabius のした樣に大いにやつゝけなければならぬ。そうでないと君の待機隱忍は無駄になつちまうだらう』

是より先き二月二十九日には既存の社會主義團體 Democratic Federation に關して友誼的な『Democratic Federation の小册子及び Hyndman の演說に用ひられた論說並に言葉に全然一致するといふわけではないが本會は Democratic Federation は有益な仕事を行ひつゝあり、又同情と援助に値打するものと考へる』と云ふ Bland の動議が滿場一致で可決された。（註二）

（註一）Davidson は蘇格蘭の小作人の家に生れ米國に渡つて哲學倫理等の研究及び學校の經營などに從事してゐた思想家である。「彼は凡ての改善を自己の改良といふ事に根據を置く倫理的無政府主義者であつた」（Beer-History of British Socialism Vol. II）又『彼の社會主義は政治的經濟的といふより寧ろ道德的社會的であつた」（Pease—History of Fabian Society）と云はれてゐる。

（註二）Fabian Society に就て謂る前には是非八十年代の英國社會主義運動復興の先驅となつた Hyndman の Social Democratic Federation に關して述べなければならぬが是は加田哲二氏が『八十年代の英國社會主義』中で詳述される筈であつたので茲には Fabian と直接關係ある部分以外は全く略したのである。又拙稿に於て Webb を中心とせず Shaw を選んだのは Fabian を歷史的に見る場合には此の方が適當と思つたからであつて、一個の社會主義者として見る時は Webb と Shaw とは比較にならぬであらう。尙參考書は Pease—History of Fabian Society. Shaw—The Fabian Societyその他の彼の Tracts, Henderson—Bernard Shaw, Beer History of British Socialism Vol. II 及び小泉敬授の Fabian に關係する諸論文等である。

二

五月拾六日に初めて Bernard Shaw は Fabian の會へ出席した。彼は Tract 第一號の發行されるまで協會の存在すら知らなかつた樣であつて（Henderson—op. cit, p. 102）九月五日に會員に選ばれたが、實は Democratic Federation に入會しやうとして居たのを協會の方へ入る樣になつたのである。併し何にも兩者の主義綱領の如何を考へて變更したのではなく彼の樣な知識や嗜癖の者には協會の方がよからうといふ樣な感がしたからであつた（Shaw—Fabian Society p. 4）Shaw は一八五六年七月二十六日に愛蘭の Dublin に生れ拾六才から二十一才まで土地管理人の事務所に雇はれてゐたが一八七六年母の後を追ふて倫敦に出た。彼の眞の生涯の始つたのは一八七九年の冬からであつた。彼は友人に誘はれて討論倶樂部 Zeletical Society に出てみた、そして入會後數週間して或討論に際して彼の非常な注意を引いた青年があつた『その若者はその討論に關する有ゆる事を知つてゐた。その席の誰よりもよく知つてゐたし又その問題に關する書物を讀んでゐた（Henderson—op. cit, p. 93）之は當年二十一才の Sidney Webb であつた。Shaw は彼と友誼を結んだ事を彼の一生中でやつた一番賢明なことだつたと語つてゐる（Ibid.）彼は更に同じ樣な種類の Dialectical Society にも入り、斯くて此期間に於て其知識見聞は非常に發達したが當時は尙經濟學に關する知識は全く持たなかつたのであつて是に注意を向ける機會が新たに到來した。一八八二年八月 Henry George が愛蘭で Fenian の代表者だといふ嫌疑で捕縛され、各新聞は之を大いに反駁し、終には議會の問題とまでなり彼の Progress and Poverty は大評判となつた。併し George は單に土地單稅論宣傳の手初めに愛蘭い來たのであつた。

之より先き Wallace が主となつて一八八二年の初め倫敦に出來た Land Nationalization Society は此期に際して九月五日に George の講演會を開催した。此講演が Shaw の一生に大變化を來させたのである。彼の書簡の一節には『八拾年代の初めの或一夜……私は倫敦の Farrington 街の記念館で一米人の土地問題に關する演說を聞いた。私は彼が米人だといふことを知つた

のは彼のよく用ひる必然といふ言葉を尻上りに喋つてゐたからである。……私はMillの「愛蘭土地問題」を且つて讀んだ以外には經濟上の見地から社會問題を研究した事のない青年だつた。演說を聞き接待係の一人から六片――どうしてそれを持合せてゐたか忘れてしまつたが――でProgress and Povertyを買つた結果私は經濟學の研究に突進しその時から社會主義者になつた……」と述べてゐる(Henderson―op. cit., pp. 152 153.)Henry Georgeの感化を受けたのは彼ばかりでなく、Georgeの言に依れば彼と共に社會運動に參加した者の六分の五はGeorgeの影響を受けた爲めであつた(Ibid., p. 154)

間もなく彼はDemocratic Federationの或席で彼が社會救濟の福音と信じてゐるGeorgeの示した樣な手段を何故採らぬかと黨員に詰問した。黨員は馬鹿にした樣に答へた『Marxの資本論を讀みたまへ』と。彼は大英博物館の圖書室で佛譯の資本論を讀み始めたが、彼の忠告者は自分達が讀んでゐなかつたので却つて恐縮したそうである。

斯くてShawは後年Wicksteedに對してMarxを辯護し、更にJevonsの最後效用說に據つてSocial Democratic Federationの徒に對してMarxの價値說を論駁する時が來るといふ奇しきMarxに對する緣は結ばれたのである。

協會の入會後九月十五日に彼の爲した最初の演說はTract第二號として發表された『宣言書』である。

『Fabiansは彼等が懷く次の樣な思想を普及し且つ、その實際の效果を論議する爲めの團體である。即ち

現在の狀態では富は不名譽なくしては享得し得ず又不幸なくしては拋棄する事も出來ない。男女共に自身の勞働に據つて彼等の慾望を充す事が國民各自の義務である。

國內の土地及び資本を生産、利用するのはその國內に生れた各個人の生れながらの權利である。而して此生れながらの權利を實行するにはその行使を欲する人以外のどんな個人の意志にも左右されるものではない。

現制度の樣に國內の土地及び資本を私人に委ねる制度の著しい結果として一方には非常に食慾がありながら食物のない者と、他方には非常な馳走がありながら食ひたくない者との互に相敵視する階級に社會を分ける樣になつた。國內の土地を私人に委ねたら出來るだけ改善するだらうと云ふ見込は彼等が皆なしてそれを最も惡くしてしまつたので信じられなくなつた、斯くて何等かの方法で土地を國有にする事が國家の任務となつた。

發明を奬勵し又その利益を出來るだけ公平な方法で分配するといふ樣な事を資本主義が僭稱するのは拾九世紀の經驗に因つて信じられなくなつてしまつた。

現制度の樣に國內の産業を競爭の行はれるまゝにして置く事は僞造不正取引及び非人道を敢へてさせる樣な結果を生じる。

生産者間の競爭は明らかに公衆に對し最も滿足な生産物を得させるのであるから、國家は全力を盡して各方面の生産に於て競爭しなければならぬ。

郵便の獨占を犯す刑罰や養育院や監獄の勞働を市場から撤退するなど自由競爭に對する抑制は廢されなければならぬ。

どんな部類の産業も中央政府によつて行はれ何等かの利益を納められる筈がない。

國家の歲入には直接稅が賦課されなければな

ら、ぬ。而して中央政府は彼等が管理する產業の收益を幾分なりとも國の充實の爲め保留する樣な法律上の權利を持つてはならぬ。

國家は各兒童がその本來の養育者の專制或は怠慢の避けられる樣に兒童に對して幸福な家庭を給する爲め私人――特にその兩親と爭はねばならぬ。

男子は女子に對して自己を保護する爲め最早特殊な政治上の特權を必要とせぬから男女は今後平等の政治上の權利を享有せねばならぬ。

どんな個人も彼等の兩親或は他の親族が國家に盡した勳功の酬で特權を享有するといふ事は出來ない。

國家は自由敎育、並に各自に對し國家產業に均等に與る事の出來る保證をしなければならぬ。

倫敦の煤煙が倫敦の天候だと稱し得ぬと同樣、現存の政府は國家だと自稱する權利を持つて居ない。

吾々は現在の樣な苦痛な時代がもう一世紀又來る位なら內亂の起る方が優である』(Pease—op. cit., pp. 41-43)此『宣言書』の內容は後の Fabian に見る樣な實際的な所はなく漠然たる、土地と資本、產業と競爭、個人と國家といふ樣な抽象論であつて『Fabian の創設者達は後には革命主義に斷然反對する樣になつたが當時は立憲政治主義といふ樣な事は Social Democratic Federation 或は Soialist League の示威運動と同樣 Fabian の會では殆んど聞れなかつた。要するに彼等は一二年間は Socialist League 同樣無政府主義的であり又 S. D. F. 同樣革命的であつた』(Shaw—op. cit., P4) 又後に Kropotkin 一派の機關 Freedom の編輯者になつたりした Wilson 夫人の加入によつて一時無政府主義熱が盛んになつた事もある。(Ibid p. 3.) 然らば何故 S. D. F 或は Socialist League に合併しなかつたかといふに外面に表はれた理由は Fabian の凡てが中流階級であるのに彼等は全く無產者階級であつたからである。併しその眞因たる理論上の相違は當時は未だ表はれなかつたのである。(Ibid p. 3)

一八八五年一月二日に Shaw は實行委員に選ばれ一九一一年にその地位を去るまで實際上の主腦者として拾餘の Tracts を著はすと共に協會を代表して對外交涉の任に當り或は千餘回の演說を行ふ等社會運動の爲めに活動したが彼の最も大きな功績は Sidney Webb を社會運動に誘つた事である。Shaw は Marx が資本論で Blue Book を利用して英國の經濟的發達について詳細な研究を遂げてゐるのに深く感動し、斯くの如き材料を巧みに利用した Tracts を著はすにはどうしても誰れかの助力を得なければならぬと考へた時直に想起したのは Zeletical Society の Webb の事であつた。生字引の樣な彼の援助を得やうと思つてその入會を說付けたのである。(Henderson—op. cit., p. 106)

Webb は一八八五年三月二十日に The Way out といふ演說をし五月一日に會員に選ばれた。彼は Shaw の目的に充分役立つたばかりでなく彼等二人は互にその短所を補ふを得て (Ibid) 協會をして今日あらしめるに至つた。

III

當時英國に於ける社會主義運動は急激に一般の注意を引く樣になつた。そして若し社會主義者中から立候補者があらはるれば勞働階級の有權者は擧つて投票するだらうと一般に考へられてゐたので一八八五年一月の總選擧には S. D. F. から二人立候補—保守自由兩黨の大なる注意を喚起した。

『一八八五年には會員が四拾名だつたと云へば、Fabian Society がどんなものだつたか充分わかるだらう。此年吾々は S. D. F. との間の隱れた相違を發見し得る事件が起つた。今と同樣當時も Federation の政策は階級闘爭の存在を認め、その上に立てられてゐた。併しその頃吾々は今日、その問題に對して考案する樣に愼重ではなく吾々は爆彈が封建制度を破壞した樣に、資本主義制度もダイナマイトが發明されては永く存續出來ないと勝手な事を云つてゐた。吾々はダイナマイト主義者であつたわけじやなく實際この理論の不合理な事は吾々が如何に爆彈に實際通じてゐなかつたかを示してゐる。併し吾々は爆彈が封建制度を破壞したといふ事は歷史的事實だと考へ又資本家に之を想起させるのは藥だと考へてゐた。所が急に Federation が階級闘爭說の目覺い實際活動を演じた。一八八五年の總選擧に彼等は二候補者を倫敦に立てた。そして Williams 君は Hampstead で二十七票 Fielding 君は Kennington で三十二票得た。又當時の一政黨が反對黨の投票を減ずる爲め彼等の選擧費を支辨した事を彼等は隱さうとはしなかつた。抽象的な道德家の見地からは之に對して何んとも反駁し樣がなかつた。なぜなら社會主義者の政治的手腕は長い間非社會主義者間の黨爭を利用しなければならぬのは明かであつたから、……又保守黨から資金を貰うのは自由黨から貰うより惡いといふ樣な考は自由黨的な考へ方で社會主義者の考ではない（註、此選擧費は保守黨から出た）……此選擧のあるまでは Federation は公衆及び政黨には漠然大きなものに想像されてゐたのであつた。保守黨が倫敦の社會主義二候補者の選擧費を支辨するだけの價値があると考へた事でも明らかにわかる。選擧以後社會主義者は選擧に關する範圍では全く顧慮するに足らぬといふ事が知れた。……どつちが多く馬鹿をみたか。保守黨は金を出したきりで何にも得ず社會主義者は何にも得ぬより惡く、彼等の評判を犧牲にした。……二決議が Fabian Society と Socialist League から發表された。Fabian のは

「社會主義候補者の選擧費の支辨に保守黨から資金を貰つた S. D. F. の評議員會の行動は英國社會主義運動の對面を汚すものと考へる。一八八五年十二月四日」又 Fabian とは色彩を著しく異にした Socialist League の決議は「Socialist League の此倫敦會員の會議は社會黨の名譽を賣るの或會員の行動を目擊して慨歎に堪へず、而して此最近の行動に關し不名譽なる黨員の政策を非難する團體に贊意を表せんと欲す。一八八五年拾二月七日」その後吾々は Federation に敵視される樣になり、他の團體に對して信賴するに足る敎導を仰ぐことなく自ら道を開拓せねばならぬことを悟つた』（Pease—op. cit., pp. 5—7.）

此選擧運動の失敗から Fitzergereld, Macdnonald その他は S. D. F. を去り翌年二月に Socialist Union を組織したが僅か二ヶ年しか續かなかつた。

一八八六年には多數失業者續出の爲め二ヶ年に亘る騷擾が起り Federation 一派の社會主義者は目覺しい活動をした。倫敦以外の都市にも暴動的な運動が盛んに行はれ、白耳義和蘭にも傳播し終には米國にまで及んで八時間勞働と失業問題とから四月には大暴動が行はれた。此間にあつて Fabian は大體傍觀者の地位に立ち僅かに一報告書を出版し失業者救濟の爲め煙草栽培をやつてみる事を勸め、不熟練勞働者を收容の

爲め兵役の强制を說いた位のものであつた。

協會は各方面の代表者を招いて一八八六年六月九日から三日間 South Place Chapel で資本と土地の國有に就て大協議會を開催した『併し此會のお蔭だと云へるのは吾々の存在を Radical clubs に知らせたのと吾々が此んな會の事務を上手にやつてのけられるつて事がわかつただけであつた』その上模樣入の美しい趣意書や眞赤な招待狀を送つた爲め fogs and armchair Socialists など丶嘲笑された位で全く失敗に終つた (Shaw—op. cit., pp. 10—12)

Wilson 夫人の樣な無政府主義の同情者が會員中どの位あるか疑問であつたので同年九月十七日 Anderston's Hotel の會で Bland と Besant 夫人が次の樣な決議案を提出した『社會主義は土地と生產手段並に富を生產し又分配する支配權を凡ての人が勞働に從事する社會の掌中に移す爲め、政黨を自ら組織するのが適當である』William Morris は之に對し追加條項を提出した。『併し、社會主義者の最初の任務は民衆に彼等の現狀がどんなであるか及びその將來がどうなるだらうかを敎へる事にあり、又社會主義の理論を彼等に知らせるにあるのだから、どんな政黨もこの樣な事を敎へる妨げとなり又その理論を漠然とさせる樣な妥協並に讓步をしなくては存立出來ないものであるから、議會の論爭に參加しやうと圖るのは社會主義者にとつて誤つた手段である』此二提議の討論が餘り激しくなつてホテルの支配人から今後會場を貸せぬと抗議が出たほどであつたが結局 Besant 夫人と Bland の動議は拾九對四十七で可決し Morris の追加案は二十七對四拾で否決された。(Shaw—op. cit., pp. 12—13.)

經濟史研究に就いて（一）

野村兼太郎

一

最近に至つて我國に於いても多くの經濟史に關する述作が公にされた。此のことは單に一般文化史の研究に有用である許りでなく、又經濟學そのものに多大の影響を與ふるものである。更に又經濟學——延いては文化科學一般の方法論に關しても多くの議論を提供する根源となる。

今此處に經濟史研究の意義を明確にするに當つて、直ちに余自身の意見を述ぶる代りに、先づアシュレー敎授 W. J. Ashley の經濟史研究に關する論文(1)を譯述し、傍ら是を批評することに依つて余の考ふるところを述べてゆきたいと思ふ。(2)

「經濟諸學に對する其の態度を鮮明にせんと欲する英米の學者は現在に於いて特に有利な狀態にある。今や經濟學者間に、彼等の社會に嘗つて發見されなかつた寬容と相互慈悲の精神が行はれて居る。吾人は前の時代——ジョン・スチュアト・ミルの論文の公刊されてから、クリッフ、レスリーの論文に於ける是が最初の反對の興起に至るまでの時期(3)——此の時代の大膽なる獨斷と一致とに歸へることを云ふのではない。寧ろ尙ほ未だ著しい相違があるけれども、一研究法の學徒がそれを科學的研究の唯一なる方法と決して主張しないこと、却つて歸納法の信仰者が今や演繹法の價値を一層十分認めて居ること、時には最も抽象的のものが事實に基き、最も具體的なるものが折々抽象法を用ひること、更に一層重要なのは彼等自身の思想の傾向が如